

佐伯市 体力向上アクションプラン(平成31年度版)

(別紙様式2)

1 体力の状況	
ア 平成30年度体力・運動能力等調査結果(県調査結果から)	
・小学生	
<ul style="list-style-type: none"> ・H30年市平均値がH29年度全国平均値を上回った項目(男子40、女子33) ・総合評価C以上の割合(男子78.5%、女子81.7%) ※市平均値が全国平均値を上回った項目数は、昨年度から11項目増えた。(H29年度62→H30年度73) ※総合評価C以上の割合は、男女ともに全国平均を下回った。 ※長座体前屈、ボール投げで全学年男女ともに全国平均を上回った。 	
・中学生	
<ul style="list-style-type: none"> ・H30年市平均値がH29年度全国平均値を上回った項目(男子11、女子17) ・総合評価C以上の割合(男子77.5%、女子93.6%) ※市平均値が全国平均値を上回った項目数は、昨年から男子は2項目減少し、女子は5項目増えた。 ※総合評価C以上の割合は、男女ともに全国の割合を下回った。 ※長座体前屈、ボール投げで全学年男女ともに全国平均を上回った。 ※50m走、シャトルラン、立ち幅跳びで全学年男女ともに全国平均を下回った。 	
イ 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	
○総合評価C以上の児童生徒の割合	
<<小学5年生>> ・男子78.5%、女子81.7% <<中学2年生>> ・男子77.5%、女子93.6%	
○生徒・学校質問紙調査結果	
<<小学5年生>> *「運動がすき」と答えた児童の割合 男子…74.2%(全国72.4%) 女子…54.9%(全国55.9%) *体育授業の始めに授業の目標が示されていると答えた割合 男子…69.8%(全国50.0%) 女子…68.2%(全国48.0%) *体育の授業で、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っているという割合 男子…55.1%(全国50.2%) 女子…51.1%(全国45.7%) <<中学2年生>> *「運動がすき」と答えた生徒の割合 男子…68.2%(全国67.0%) 女子…46.3%(全国47.9%) *保健体育授業の始めに授業の目標が示されていると答えた割合 男子…68.2%(全国58.2%) 女子…68.5%(全国56.3%) *保健体育の授業で、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っているという割合 男子…61.4%(全国45.0%) 女子…52.3%(全国43.0%)	
ウ 当該市町村の児童生徒の特徴的な様子	
平成30年度運動能力調査で小中学校の女子において、全国平均を上回る項目が増加した。しかし、総合評価でC以上の割合は中学男子を除いて改善されていない。運動好きの児童生徒も女子においては、改善できていない。運動をする、しないの二極化も進んでいるように感じている。	

2 平成30年度の取組の検証

平成30年度の指標	達成状況・成果等
達成指標	
○「運動が好き」と答える児童生徒の割合 小学校(男子73%、女子55%) 中学校(男子68%、女子45%) ○全国平均を上回る割合 小学校(男子67%、女子67%) 中学校(男子54%、女子42%) ○総合評価でD以下の児童生徒の割合 小学校(男子20%、女子17%) 中学校(男子22%、女子11%)	○「運動が好き」と答える児童生徒の割合 小学校(男子74.2%、女子54.9%) 中学校(男子68.2%、女子46.3%) ○全国平均を上回る割合 小学校(男子83.3%、女子68.8%) 中学校(男子45.8%、女子70.8%) ○総合評価でD以下の児童生徒の割合 小学校(男子16.8%、女子15.7%) 中学校(男子25.2%、女子8.2%)
取組指標1 ○児童生徒の運動やスポーツへの愛好度を高めるための具体的な取組を行った学校の割合が100%	○2学期末実施市教委検証アンケートにおいて、取り組んだ小中学校100%
取組指標2 ○市や自校の課題を解決するために一校一実践において工夫した取組を行った学校の割合が100%	○全ての小中学校において、「走力の強化」を課題として位置づけ一校一実践に工夫・改善に取り組んだ学校100%
取組指標3 ○運動が苦手な児童生徒の運動能力を高めるための具体的な取組を行った学校の割合が100%	○全ての小中学校において、D、E層の「体力向上」を目指して工夫した取組を行った学校の割合100%
【総括】	
全国平均を上回る項目の割合が2年連続で改善の傾向にあり、各校の取組の成果が現れているが、運動への愛好度の割合は、小学校・中学校の女子は下降傾向にあり、原因の分析と取組の見直しが必要である。	

3 平成30年度の取組状況

ア 児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動

①教育委員会

- ・体力、運動能力等調査の結果を分析し、市全体の課題を明確化し、校長会、体育主任会議等で提示し、改善策等の共通理解
- ・体育主任会議等において、好事例の紹介や小学校体育専科教員等からの実践事例を周知し、教職員の意識改革や指導力向上を促進
- ・各学校の「一校一実践」の取組状況に対する指導、助言。体育保健課による県内好事例の紹介
- ・体育専科教員の活用要項を作成し、管内小学校での積極的な活用を促進

②各学校

- ・体力、運動能力等調査結果に基づいて、市や自校の課題を解決するための効果的な「一校一実践」の実施及び検証を行った。
- ・調査結果を学校だよりやホームページを利用し、地域や保護者へ情報発信し、体力向上プランにむけ理解を求めた。
- ・ICT機器を取り入れ、「分かる」「できる」「楽しい」を実感させ、児童・生徒が主体的に取組む授業づくりに取り組んだ。
- ・育友会(PTA)と連携した基本的な生活習慣の見直しを図り、運動機会の創出について取り組んだ。
- ・中学校において、部活動の目標設定や合同練習、トレーニングに関する学習など活動意欲向上を図った。

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動

①教育委員会

- ・体育専科教員の2名体制を維持し、週2回の派遣を通して実践事例や指導法の充実を全市的に広げた。
- ・年2回の体育主任会議を開催し、市の体力分析や課題等を共有、周知を図った。
- ・体育専科教員、体力向上推進教員の公開授業の実施により、主に若手教員の授業改善及び指導力向上を図った。
- ・体育主任会議において「一校一実践」の取組における工夫や学ぶ意欲が高まる指導の在り方について研修する場を設定した。
- ・各学校への栄養教諭の活用依頼と派遣(日程調整)による食育の充実を図り、健康的な生活習慣の定着を促進した。

②各学校

- ・体育主任を中心とした学校全体での組織的な取り組みとしての「一校一実践」の推進
- ・各学校でのデータの客観的な分析、指標に基づいた体力向上プランと運動した一校一実践
- ・基本的な生活習慣や食習慣の定着促進のため、栄養教諭を活用した食育授業の実施した。

4 課題(平成31年度に向けて)

1. 体力の状況について

- ・小学校について、市平均値がH29年度全国平均値を上回った項目数は、昨年度から男女ともに増えた。
- ・総合評価C以上の割合も男女ともに全国、県平均を下回っている。
- ・50m走においては、小学1年を除いて全ての学年で全国平均を下回っている。
- ・中学校においては、女子は全国平均を上回る項目が増えているが、男子は昨年を下回った項目が増えた。
- ・項目別にみると小学生と同様に男女ともに50m走や20mシャトルラン、立ち幅跳び等の走運動に関する向上が必要である。
- ・総合評価C以上の割合も男子は県平均、女子は全国平均を下回っている。

2. H30年度の取組の検証について

- ・「運動することが好き・やや好き」の割合は小中学校男子は、ともに全国平均値を上回っているが、小中学校女子は下回っている。
- ・女子の運動への愛好度や運動への意欲を向上させる取組が必要である。
- ・上記の推進のために「少数多場」を重視した授業実践、児童生徒による自主的・自治的活動の促進を図る。

3. 平成30年度の取組状況について

- ・小学校において市平均値が全国平均値を上回る項目数が女子は上昇していることは、体育専科教員活用の効果の一つの要因と考えられているが、愛好度へ結びついていない。また、運動の二極化解消も市全体の共通課題である。
- ・中学校において、女子は昨年度からの各項目で数値が向上したが、男子の全体的な底上げが必要である。
- ・上記課題解決のため、自校の課題把握を踏まえた体力向上プラン「一校一実践」の作成・実践・検証を推進する。

5 平成31年度の目標及び指標

【目標】

- 全国平均値を上回る項目数(割合)で昨年を上回る。
- 総合評価C以上の児童・生徒の割合を高める。
- 「運動が好き」な児童・生徒の割合が昨年を上回る。

達成指標	取組指標
○全国平均値を上回る項目数の割合 小学校(男子41/48・女子34/48) 中学校(男子13/24・女子17/24)	○市と自校の課題を解決するための効果的な「一校一実践」に取り組む学校の割合が80%以上 【市の課題】小・中学校共に「50走」、中学校「シャトルラン」「立ち幅跳び」
○総合評価C以上の児童・生徒の割合 小学校(男子80%・女子82%) 中学校(男子78%・女子94%)	○体育専科教員等を活用した授業実践による工夫・改善に取り組む学校の割合が80%以上
○運動することが好きな児童・生徒の割合 小学校(男子75%・女子55%) 中学校(男子69%・女子48%)	○児童・生徒のスポーツや運動の愛好度を高める具体的な取組を学期に1回以上取り組む学校の割合が100%

6 平成31年度の行動計画

ア 児童生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校の行動

①教育委員会

- 市全体の課題や改善策、市内統一した重点項目の設定
- ・体力運動能力等調査の結果を分析し、校長会等で方向性や目標指数、各校の取組事例を提示し、共有する。
- 教職員の意識改革や指導力向上を促進する。
 - ・年1回体育主任会議の実施し、効果的な実施方法等の情報共有を図る。
 - ・体育専科教員、体育推進教員の活用のための実施要項を作成し、積極的に学校へ派遣し、授業や一校一実践につなげる。
- 各学校の体力向上にかかる課題の把握と「一校一実践」の取組に対する指導・助言(提出時、視察時)及び検証促進
 - ・学期ごとの独自アンケートによる取組の把握

②各学校

- 運動能力の課題を探り、心身ともに健全な児童生徒の育成
 - ・体力調査結果に基づいて、市や自校の課題を解決するための効果的な「一校一実践」の実施
 - ・ホームページ及び広報誌等での掲載による啓発
- 児童・生徒が主体的に取組み、学ぶ意欲が高まる魅力ある授業づくり
 - ・運動すること、見ることが「楽しい」を実感できる授業や習慣づくり
 - ・新大分スタンダードに基づく1時間完結型授業の確立
- 運動への愛好度を高めるための体育的活動の設定と内容の工夫
 - ・運動の楽しさを味わえる体育的活動や行事等の実施
 - ・「ゲーム性」「自主性」とした体育的活動の実施
 - ・児童会や生徒会が主体となる全校、学年レクリエーション等の実施
- 中学校における部活動の時間の活用
 - ・部活動間の連携や共通目標の設定、共通するトレーニング方法の学習などによる活性化

イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための市町村教育委員会や学校の行動

①教育委員会

- 体育専科教員の活用方法の工夫
 - ・体育専科教員の2名体制を維持し、実践事例や指導法の充実を全的に広げる。
 - ・体育専科教員、体力向上推進教員の実践例や研究成果を周知したり、公開授業の実施による指導力向上
 - ・体育主任会議において体育専科教員・体育推進教員から体力調査に向けた効果的な指導方法の提示
- 健康的な生活習慣の定着促進
 - ・各学校への栄養教諭の活用依頼と派遣(日程調整)による食育の充実
 - ・「早寝早起き朝ご飯」等の生活習慣の改善

②各学校

- 体育主任の役割の強化
 - ・校内におけるミドルリーダー的存在をもって充て、組織的に取り組む体制づくりと校内研修の充実
 - ・体育主任会や体育部会における研修内容の所属校での還流
- 「一校一実践」の組織的な取組
 - ・管理職のもと、教務主任や体育主任、部活動主任が中心となり、体力向上推進委員会を組織し、市の課題や自校の課題を解決するための効果的な「一校一実践」の作成
 - ・校内体力向上研修会の実施による「一校一実践」の取組内容の共通理解
 - ・学期ごとの検証と次学期への推進
- 健康的な生活習慣の定着促進
 - ・栄養教諭を活用した食育授業の実施(学年・学級)
 - ・育友会と連携した生活習慣の改善の取組

8 平成31年度の人的支援の希望内容

①体育専科教員の配置希望

- 2名(現状)

ア 本務校(鶴岡小、佐伯小)

イ 訪問校(市内すべての小学校)

②希望に基づいた活用計画

5月	体育主任会議における体力・運動能力調査の実施方法、学ぶ意欲を高める指導等の実践発表
1学期	希望訪問校での授業実践、授業支援
2学期	希望訪問校での授業実践、授業支援
3学期	実践事例の交流、体力・運動能力調査の分析